

第 58 回大阪建築コンクール 入賞発表

平成 24 年 5 月 1 日

主催 社団法人大阪府建築士会

後援 大阪府・(財)大阪 21 世紀協会・(社)大阪府建築士事務所協会

第58回大阪建築コンクール入賞発表

主催／社団法人大阪府建築士会

後援／大阪府・財団法人大阪21世紀協会・社団法人大阪府建築士事務所協会

●大阪府知事賞部門

第1部 児童養護施設 三ヶ山学園

野村 充

第2部 龍谷大学 龍谷ミュージアム

赤木 隆

塩野義製薬医薬研究センター SPRC4

小幡剛也

●渡辺節賞部門

渡辺節賞 Dアパートメント(CASA 小治郎)

香川貴範+岸上純子

奨励賞 神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモ二ホール 中西正佳

趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があります、その責務は重大であります。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会の会員を表彰します。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものであります。

募集範囲

2009年1月1日から2011年12月31日の間に竣工し、竣工検査済証の発行を受けた建築物

※建築確認申請不要物件は竣工検査済証不要、竣工年月日は工事完了時

●大阪府知事賞部門

対象建築物：ノンセクション（住宅を主としたものは除く）

第1部：延床面積3,000㎡未満の建築物

第2部：延床面積3,000㎡以上の建築物

建築位置：近畿2府4県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員

●渡辺節賞部門

対象建築物：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿2府4県

応募資格：設計者が竣工検査済証発行日現在39歳以下の大阪府建築士会正会員

審査委員会

委員長 小玉祐一郎（神戸芸術工科大学 教授）

委員 ※50音順

芦澤竜一（芦澤竜一建築設計事務所 主宰）

内海慎介（株竹中工務店 大阪本店設計部）

忽那裕樹（株E-DESIGN 代表取締役）

布野修司（滋賀県立大学 教授）

満田衛資（満田衛資構造計画研究所 代表）

南 正晴（前大阪府 住宅まちづくり部公共建築室

長、現日本住宅パネル工業協同組合 技術顧問）

審査

審査委員会4回

●第1次審査

応募作品（大阪府知事賞部門 第1部：14点 第2部：7点 渡辺節賞部門 12点）より、書類・写真によって、知事賞部門 第1部4点、第2部3点、渡辺節賞3点を選考

●第2次審査 第1次審査通過作品について現地審査2日間

●最終審査 大阪府知事賞部門：第1部/1点 第2部/2点 渡辺節賞部門：渡辺節賞/1点 奨励賞/1点 を決定

表彰式・受賞者講演会

●表彰式

とき／平成24年5月30日（水）本会通常総会式典席上

会場／ホテル大阪ベイタワー

●受賞者講演&ディスカッション

とき／6月7日（木） 18：00～20：00

会場／ハービス OSAKA 4階 イベントルーム

社団法人大阪府建築士会 540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 ジョイント大手前ビル5F

電話 06-6947-1961 fax 06-6943-7103 メール info@aba-osakafu.or.jp

第 58 回大阪建築コンクール 応募要項

主催／(社)大阪府建築士会 後援／大阪府・(財)大阪 21 世紀協会・(社)大阪府建築士事務所協会

●趣旨

大阪建築コンクールは昭和 29 年に創設、今回で 58 回を迎えることになりました。

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大であります。

建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会の会員を表彰します。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものであります。

●審査委員会

委員長 小玉祐一郎 (神戸芸術工科大学 教授)

委 員 ※50 音順

芦澤 竜一 (芦澤竜一建築設計事務所 主宰)

忽那 裕樹 (株式会社 E-DESIGN 代表取締役)

満田 衛資 (満田衛資構造計画研究所 代表)

内海 慎介 (株式会社竹中工務店大阪本店設計部)

布野 修司 (滋賀県立大学 教授)

南 正晴 (大阪府 住宅まちづくり部公共建築室長)

	大阪府知事賞部門	渡辺節賞部門
応募者の資格	応募作品の設計者／大阪府建築士会正会員	応募作品の設計者／完了検査済証発行日現在 39 歳以下の大阪府建築士会正会員
対象建築	ノンセクション (住宅を主としたものは除く) 第 1 部：延床面積 3,000 m ² 未満の建築物 第 2 部：延床面積 3,000 m ² 以上の建築物	建物の種類・規模は問わない
建築位置	近畿二府四県 大阪府・滋賀県・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県	
竣工年月日	2009 年 1 月 1 日から 2011 年 12 月 31 日の間に完了検査済証の交付を受けた建築物	

注 1) 応募時に大阪府建築士会に入会申込をした場合は認める

※大阪府建築士事務所協会会員が応募時に大阪府建築士会に入会する場合は、本会入会金を免除する

注 2) 過去に渡辺節賞を受賞した設計者は渡辺節賞には応募出来ない

注 3) 設計者が複数の場合は、当該建築物の設計グループの代表者

注 4) 過去においてこのコンクールを受賞した作品は応募出来ない

注 5) 同一作品で、大阪府知事賞と渡辺節賞への重複応募も可能とする

注 6) 竣工年月日は完了検査済証発行日とする

建築確認申請不要物は完了検査証不要 竣工年月日は工事完了時

※下線部は今回より変更

※第 59 回大阪府知事賞部門の対象建築物は住宅の予定

●提出書類

下記①～⑤を A4 サイズのファイル 1 冊にまとめて、作品名を表示した表紙を付けて提出のこと

①第 58 回大阪建築コンクール応募・建築概要書
(所定の書式…本 PDF の 3 ページ目)

②設計・施工上特に意を用いた点
(所定の書式…本 PDF の 4 ページ目)

③確認済証の写し及び完了検査済証の写し
※計画変更の場合は最終分のみ提出

※確認申請不要物件は不要理由を明記した書面

④設計図書 付近見取り図、配置・平面・立面・断面図等

⑤内外観写真

⑥写真データ(JPEG)…主要内外観 5 カット以内を CD に保存

⑦応募料の振込票コピー

※Word ファイルの①および②をご希望の場合は、本会のメールアドレス(info@aba-osakafu.or.jp)までメールにてご請求下さい。

●応募料

1 作品につき 5,000 円。大阪府知事賞部門と渡辺節賞部門に重複して応募する場合は 2 作品分 10,000 円。

書類提出期間 平成 24 年 2 月 16 日(木)～2 月 28 日(火)

※平日/午前 10 時～午後 5 時 土日休み 2 月 28 日消印有効

●表彰

部門	受賞 点数	設計者		建築主 施工者
		賞状	副賞(メダル)	感謝状
大阪府知事賞	各部 1～2 点	大阪府知事	建築士会	建築士会長
渡辺節賞	1～2 点	建築士会長	建築士会	建築士会長

※ 現地審査対象作品の建築主には大阪府建築士会より礼状贈呈

●受賞発表

本会機関誌「建築人」に発表する。(受賞者には 4 月下旬に通知)

●展示会と講演会

受賞作品のパネル展示と受賞者講演会を 6～7 月頃実施予定

●表彰式

平成 24 年 5 月 30 日 本会通常総会席上

●問合せ・提出先

社団法人 大阪府建築士会 大阪建築コンクール事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町 3-1-17 ジョイント大手前ビル 5F

TEL06-6947-1961 FAX06-6943-7103

メール info@aba-osakafu.or.jp

※提出は持参・郵送いずれも可



審査委員長 小玉祐一郎

このコンクールは今年で58回目を迎えた。これまでの受賞作品や受賞者のリストを見ると、その歴史の長さや重さを感じる。大阪の建築の魅力は東京とは違った一種独特のものがあると日ごろ感じ、それはおそらく関西の持つ歴史の長さ、建築の文化、住の文化の成熟度によるものであらうと漠然と考えている私自身にとって、最近の力作をじっくり見る良い機会となった。

もうひとつの関心は、東日本大震災の影響である。大災害は、その時の社会が抱えている構造的な問題を顕在化させる—と言われるが、人口減少、少子高齢化、低成長経済、コミュニティの変貌、地球環境やエネルギーの問題、さらには民主主義のあり方など、その問題の所在が目に見えてはっきりしてきたようだ。原子力問題を取り上げるまでもなく、これらの問題解決には多くの選択肢があり、合理的で明確な処方箋があるわけでもない。しかし、何かが変わるという予感はいくつかの人が共有するようになったのではないか。もちろん、それが都市や建築に表れるまでのタイムラグはあるにしても、兆しは見えてきたかということだ。

今回の応募規定では、授賞は、大阪府知事賞の2部門、渡辺節賞部門の3部門に対して行い、大阪府知事賞は、住宅を主としたものを除き、延床面積が3,000㎡未満の第1部と、3,000㎡以上の第2部の2部門とされている。総応募数は33点で、第1次審査会ではその中から、知事賞部門第1部で4点、第2部で3点、渡辺節賞部門で3点の計10点を選出された。第2次審査会では全員で現地審査を行い、その後、最終審査を行うという段取りである。大阪府建築士会主催とはいえ、審査対象は京都から明石、田辺までの広い範囲に位置する。このコンクールの広がりや大きさを若干の疲労感とともに感じた2日間の現地審査であった。最終審査は、それぞれの部門ごとに、第1に推すもの、第2に推すものの2点の投票を行うことから始まった。その結果を見ながら、委員のそれぞれが推薦理由を含むコメントを述べ、討論を行うという手順である。白熱した議論もあったことを特記しておきたい。

大阪府知事賞部門第1部では、「児童養護施設 三ヶ山学園」が7人の審査員のうち6人が最優秀作品として評価した。不整形な敷地の外周に沿うように、1階にパブリックな、2、3階にプライベートな室群を配置し、それらに囲まれるように、リビングと名付けられた3階分の吹き抜け空間がある。とかく殺風景になりがちな大きな吹き抜け空間に変化を与えているのは、外周および屋根面に巧みに設けられた外部との接点である。外部から引き込まれた中庭、屋根から宙づりにされた2階レベルのルーフガーデン、天窗などから、さまざまな質の光、緑、そして自然の風が取り込まれている。養護施設にきわめて開放的な「家」を仕組んだデザインが評価された。RC壁構造に外断熱を施し、ダイナミックな空間構成ながら、安定した熱環境維持している点も見逃せない。一方で、この大空間がリビングとして有効に使われているのだろうかという意見もあったことを付記しておく。この部門では、「えいの里保育園」の開放的な木造空間、「紀陽銀行田辺支店」の材料の使い方、「キャナルテラス堀江東棟・西棟」の地域へ貢献を評価する意見があった。

大阪府知事賞部門第2部では、「龍谷大学 龍谷ミュージアム」と「塩野義製薬医薬研究センター SPRC4」という、いろいろな意味で対照的な2つの建築に票が集中し、結果として双方が受賞することとなった。前者は、オーソドックスではあるが重厚なデザインで、高い完成度を感じさせる材料の扱い、ディテールの巧みさが評価された。京都の中心部にあるゆえ、景観条例上の要請・規制や周辺の歴史的空間との関係をどのようにデザインに昇華させるかが一つのポイントになる。堀川通に面する「流れ」をモチーフにした西側ファサードや表通りと裏通りを結び建物を東西に貫く路地空間など、外部空間の内部空間との融合にみられる意匠と機能の複合は、総じて昇華の有効な解法と評価された。洗練された空間は認めつつ、新規性の評価に委員間の温度差があった。後者は、「知的生産性」の向上が命題とされる研究施設であり、それに果敢に挑戦したデザインが評価された。その第一は、研究室と実験室、コミュニケーションスペースを有機的に関係づけた内部の空間構成である。高い天井高さを必要とする実験施設と研究スペースを同じフロアにおくという要請に応えながら、その高さを生かして開放的な研究執務空間を実現し、また、上下階を大きな面積を持つスキップフロアでつないで、活発なコミュニケーションを意図した「ガレリア」を建物中央に設け

ている。東と西の外周には連絡通路や休憩スペースを含む外部との緩衝空間が配置されている。複雑な機能が複合されたファサードは未消化との評価もあった。供用開始から日が浅いこともあってか、使う側の戸惑いが感じられたが、先進的な試みゆえの現象であろう。

渡辺節賞部門では、「Dアパートメント (CASA 小治郎)」、「神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモニホール」、「目神山のいえ」で票が割れた。これらもそれぞれ対照的なデザインである。都市計画道路にまたがる敷地に立つ「Dアパートメント (CASA 小治郎)」は駅前の雑踏に中にあるが、幸い南東側はオーナーの敷地や川があり、オープンペースが残されている。その外部空間と室内空間を、中庭を介しながら縦横自在につないでゆく構成が斬新だ。それゆえ、各住戸は外部との接点を多く持ち、部屋の奥行きは2mほどと狭いものの、意外な広さを感じさせる開放感がある。鉄骨造でありがちな上下左右の遮音の課題にきめ細やかな配慮がされている反面、中庭や屋上の扱いに配慮が足りないとの意見もあったが、荒削りではあるがコンセプトを具体化する空間構成手法は新しい力を感じさせる。「神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモニホール」は、講堂を兼ねた小規模な体育館である。書類審査では、軽快な木架構屋根が印象的であったが、現地ではむしろ、周辺の自然や既存キャンパスの環境を読み込んだ手堅いプランニングとディテールが魅力的で、若手を支える設計組織の力も感じさせられた。「目神山のいえ」は、石井修以来のこの地の住宅地の特徴を踏まえたデザインの熟成を感じさせた。結局、もっとも意欲的で実験的な試みをしている「Dアパートメント (CASA 小治郎)」がこの賞にふさわしいと評価され、ついで「神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモニホール」が奨励賞ということになった。

冒頭で述べたように、関西の建築力にあらためて触れる一方でその多様化への胎動も感じ、さらに、エネルギーや環境へのデザイン配慮が確実に定着しつつあることも認識した審査経験であった。

●大阪府知事賞部門 第1部 [延床面積 3,000 m²未満の建築物]

児童養護施設 三ヶ山学園

設計者 野村 充 (野村充建築設計事務所)

建築位置 大阪府貝塚市東山 2-1-1
建物用途 社会福祉施設
建築主 社会福祉法人 三ヶ山学園
施工者 東亜建設工業 株式会社
竣工年月 2010 年 9 月
構造 RC 造、一部 S 造
階数 地上 3 階
敷地面積 1,736.62 m²
建築面積 1,027.90 m²
延床面積 2,089.89 m²



(撮影者/ナトリ光房 名執一雄)

＊審査講評

児童養護施設を「大きな家」として、子供達のコミュニケーションが醸成される工夫がなされている。建築中央に大きなコモンスペースを配し、周囲に動線と居室群を展開する構成。プライベートとパブリックが空間として組み合わせられ、生活の中で安全地帯と創意工夫で使いこなす多様な場所が提供されている。屋外や空を切り取った風景もリビングに組み込まれ、建築ファサードとともに子供達の期待感を高め、その笑顔を支える場所となっている。(忽那審査委員)

＊設計者プロフィール

1948 年生まれ
1966 年 京都工芸繊維大学工芸学部建築工芸学科入学
1970 年 京都工芸繊維大学工芸学部建築工芸学科卒業
1970 年 竹中工務店入社
1980-81 年 J. ポルシェック、P. グラック & アソシエイツ (NYC)
2005 年 竹中工務店退社
2006 年 野村充建築設計事務所開設 現在に至る
2011 年- 関西学院大学非常勤講師



[主な建築作品と受賞歴]

2006 年 大野美の家	JCD デザインアワード 2007
2010 年 西山台の家	
2010 年 児童養護施設 三ヶ山学園	第 21 回 AACA 賞奨励賞
	2011 年度グッドデザイン賞
	第 5 回 キッズデザイン賞
	JCD デザインアワード 2011

●大阪府知事賞部門 第2部 [延床面積 3,000 m²以上の建築物]

龍谷大学 龍谷ミュージアム

設計者 赤木 隆 (株式会社日建設計)

＊概要

建築位置 京都府京都市下京区西中筋通正面下る
丸屋町 117
建物用途 博物館
建 築 主 学校法人龍谷大学
施 工 者 株式会社浅沼組
竣工年月 2010 年 7 月
構 造 S 造、RC 造、SRC 造
階 数 地上3階 地下1階
敷地面積 1,671.69 m²
建築面積 1,342.85 m²
延床面積 4,412.65 m²



(撮影者／東出清彦)

＊審査講評

①場所性（西本願寺や堀川通、油小路側の街並）に対する形態や色彩の配慮。②通り抜けアプローチとサンクンガーデン、エントランスホールを一体的に構成し立体的な露地と見立てた経路空間の魅力。③各所の素材やディテールデザインの密度やプロポーションから感じられる工芸的な雰囲気。—これらの工夫によって、宗教性や地域性と冷静に真摯に向き合うことで京都らしい、現代的な建築が高い完成度で実現されている。（内海審査委員）

＊設計者プロフィール

1953 年生まれ
1972 年 兵庫県立兵庫工業高等学校建築科 卒業
1972 年 株式会社日建設計 入社
2009 年 株式会社日建設計 設計部門 代表付 デザインパートナー



[主な建築作品と受賞歴]

1996 年	大阪府立図書館	日本図書館協会建築賞	大阪まちなみ賞
1998 年	多賀町立あけぼのパーク多賀	多賀町立図書館	
		日本建築学会作品選集	関西照明技術普及会賞
2002 年	広島修道大学図書館	日本図書館協会建築賞	日本建築学会作品選集
2006 年	龍谷大学大宮図書館	日本建築学会作品選奨	日本図書館協会建築賞 BELCA賞
		日事連建築賞	照明普及賞（本部表彰）
2010 年	龍谷ミュージアム	京都デザイン賞 JIA優秀建築選	SDA賞入選

●大阪府知事賞部門 第2部 [延床面積 3,000 m²以上の建築物]

塩野義製薬医薬 医薬研究センター SPRC4

設計者 小幡剛也 (株式会社竹中工務店)

＊概要

建築位置 大阪府豊中市二葉町 3-1-1
建物用途 研究所
建築主 塩野義製薬株式会社
施工者 株式会社竹中工務店
竣工年月 2011 年 7 月
構造 SRC一部S及びRC造
階数 地上5階 塔屋1階
敷地面積 34,627.97 m²
建築面積 10,069.84 m²
延床面積 43,929.84 m²



(撮影者／平井広行)

＊審査講評

まさにマシンのような建築である。厳重な管理が必要な実験施設も併設されているから、まるで工場のようなもある。巨大建築ではあるけれど、細部にも目配りがされており、日本の最先端の研究施設としての水準を示している。巨大な吹き抜け空間の中に、フリーアクセスの研究ブースが並んでいる。R. ロジャースのロイズを思い起こしたが、気持ちよさそうである。ただ、しわぶきひとつしないのはいささか不気味であった。(布野審査委員)

＊設計者プロフィール

1969 年生まれ
1987 年 京都大学工学部建築学科 入学
1991 年 京都大学工学部建築学科 卒業
1993 年 京都大学工学研究科大学院 修了
1993年 株式会社竹中工務店 入社
2006年 同設計部 課長代理
2011 年 同設計部 課長・設計第3部門 2G グループリーダー



[主な建築作品と受賞歴]

1997 年 和泉市久保惣記念美術館新館	大阪建築コンクール大阪府知事賞
2001 年 芦屋カンツリー倶楽部別館	建築学会作品選集 2004 第13回 受賞銀賞
2002年 勝山市(仮称)健康福祉センター設計プロポーザル	佳作
2003年 三重県熊野古道センター(仮称)基本設計公募型プロポーザル	優秀賞
2004 年 京都府民共済ビル	第51回 青年技術者
2006年 ダイハツ工業株式会社 100 周年記念史料展示館	照明普及賞
2010年 塩野義製薬 医薬研究センター SPRC4	

●渡辺節賞部門 渡辺節賞

D アパートメント(CASA 小治郎)

設計者 香川貴範+岸上純子 (SPACESPACE)

*概要

建築位置 大阪府門真市
建物用途 共同住宅+事務所
建築主 鈴木昭弘
施工者 パナホーム株式会社
竣工年月 2011年12月
構造 S造
階数 地上3階
敷地面積 161.72 m²
建築面積 94.96 m²
延床面積 228.33 m²



(撮影者/鳥村綱一)

*審査講評

間取り、階段室など通常動かしがたい集合住宅のヴォキャブラリーに新たな可能性を見出した挑戦作である。敷地形状に沿わせて決定した中庭を囲うロの字型の形態の中に、歪んだ階段が上部へと延びていく。2mという狭小間口のくねった住戸を住人がどのように住みこなし、谷間のような中庭のヴォイドスペースがこの集合住宅にいかなるメリットをもたらすのか、とても楽しみである。(芦澤審査委員)

*設計者プロフィール

香川貴範

1974年生まれ

1994年 東京工業大学工学部建築学科 入学

1998年 東京工業大学工学部建築学科 卒業

1998年 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程 入学

2000年 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程 修了

2000年 株式会社坂倉建築研究所 入社

2006年 株式会社坂倉建築研究所 退社

2006年 SPACESPACE 設立

現在、摂南大学、京都造形芸術大学、神戸芸術工科大学非常勤講師



岸上純子

1979年生まれ

2000年 関西大学工学部建築学科 入学

2004年 関西大学工学部建築学科 卒業

2004年 神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻博士課程前期課程 入学

2006年 神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻博士課程前期課程 修了

2006年 株式会社坂倉建築研究所 入社

2010年 株式会社坂倉建築研究所 退社

2010年 SPACESPACE

現在、大阪工業技術専門学校特任教員、大阪市立大学非常勤講師



[主な建築作品と受賞歴]

2002年 邑楽町役場庁舎 住民参加型設計提案競技

佳作

2006年 塩尻市大門中央通地区 設計者選定競技

佳作

2008年 住宅セクションVol.2「家の風景・風景の家」

最優秀賞

2008年 ぐんま総合情報センター 設計提案競技

佳作

2008年 くまもとアートポリス熊本駅西口駅前広場設計競技

佳作

2011年 磯山調剤薬局

三重県建築賞入選 JCD Design Award2011 銀賞

●渡辺節賞部門 奨励賞

神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモ二ホール

設計者 中西正佳（株式会社竹中工務店）

＊概要

建築位置 兵庫県神戸市須磨区高倉台 7-21-1
建物用途 学校 体育館
建築主 学校法人睦学園
施工者 株式会社竹中工務店
竣工年月 2011 年 5 月
構造 木造+RC 造
階数 地上 1 階
敷地面積 47,659.65 m²
建築面積 838.07 m²
延床面積 742.95 m²



（撮影者／稲住写真工房 稲住泰広）

＊審査講評

大断面集成材利用の体育館となるととかく構造技術が前面に出がちだが、北面の列柱や底からはむしろ日本古来の建築に通じる荘厳さや優美さを感じる。聞けば多くの寺社建築を研究したという。要素の少なさに加え屋根を大胆に浮かすなど大味な印象も残る一方で、緑豊かな北側の斜面にあてた柔らかな光を取り込む構成は木の列柱と相まって森の中にいるような心地よさを与えてくれた。建築美に対する探究心、多様な技術をまとめ上げる力、利用者への愛情。それらバランスのよさに作者の今後に期待が膨らむ。（満田審査委員）

＊設計者プロフィール

1981 年生まれ
2001 年 京都大学工学部建築学科 入学
2005 年 京都大学工学部建築学科 卒業
2005 年 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 入学
2007 年 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 修了
2007 年 竹中工務店入社
現在、竹中工務店大阪本店設計部



〔主な建築作品と受賞歴〕

2005 年 日本建築学会設計競技 最優秀賞 島本源徳賞
2006 年 毎日新聞・DAS 学生デザイン賞 建築部門賞
2008 年 睦学園兵庫大学付属加古川幼稚園園舎増築
2010 年 台湾高雄フェリーターミナル国際コンペ 3rd Prize
2011 年 神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモ二ホール
神戸都市デザイン賞・建築文化賞 環境省省エネ・照明デザインアワード優秀事例

大阪建築コンクールの開催主旨とこれまでの経過

大阪建築コンクールの開催主旨とこれまでの経過

●大阪建築コンクール開催主旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会の会員を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

本コンクールを通じて一般市民の皆様が、建築士についての関心と理解を深め、また、これを機会として建築士が地域社会との関わりについての自覚を更に高めることを目的としている。

●大阪建築コンクールの経緯

- 1) 設 立 昭和 29 年度
- 2) 主催者 昭和 29～52 年度 大阪府〈建築部主管〉、審査を社団法人大阪府建築士会に委託
昭和 53 年度より社団法人大阪府建築士会に主催が移管
- 3) 開 催 昭和 29 年度より現在まで、毎年開催し本年度で第 57 回を迎えた。
- 4) 目 的 当初は戦災復興と建築文化の進展を目途に、優秀な建築作品（その設計者である建築士）を表彰する。大阪府知事が表彰することで、府民の関心と呼び、初期の目的を達成。
現在は地域社会の発展と建築文化の向上について、建築士はもとより府民にも関心を持って頂き、住みよい社会をつくりだすことを主な目的としている。

- 5) 表 彰 大阪府知事賞：隔年毎に対象建築物を下記の 2 種類に分けている。

1. ノンセクション（住宅を主としたものは除く）

2. 住居用建築物（併用は含むが、複合建築物で一部分のみ住宅の場合は除く）

＊今回 58 回はノンセクションの年

渡辺節賞（本会初代会長の故渡辺節の名前を冠した新人賞 第 24 回に創設）

＊第 58 回までで通算 262 作品を表彰（渡辺節賞 32 作品含む）

渡 辺 節

(1884～1967)

東京に生まれる。明治 41 年東大工科大学建築学科を卒業。韓国政府度支部建築所技師となる。釜山や仁川の税関庁舎など設計。同 45 年鉄道院へ入り京都駅を新築した。大正 5 年独立して建築事務所を開設。以後関西地区を中心に数多くの建築を設計した。アメリカ式の合理主義的な経済性への配慮と平面計画の堅実さ、親しみやすい形式的な意匠の適切な選択などで、現実的な関西の財界に信頼があった。また若き村野藤吾がその事務所で 10 数年の修行を重ねたことも特筆しなければならない。作品は、大阪商船神戸支店、日本興業銀行本店、大阪ビルディング、同東京支店、日本勧業銀行本店、日本綿業倶楽部などの他、枚挙のいとまがない。